



かまくら認知症ネットワーク

題字 古川茂明

- 会報（隔月刊）3号
- 2012年3月1日発行
- 編集発行人
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク
〒247-0056鎌倉市大船1-22-2-402号
- TEL0467-47-6685
- 郵便振替
00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹

認知症ケアでつながる人々 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら 施設長

平成23年8月、若年性認知症の支援に取り組む知人から電話があった。「横浜市に住む会社を休職中の若年性認知症の方のサポートをできる人を探しているが、稲田さんが近いかなと思って…」ということだった。住所をお聞きすると確かに私の自宅に近かった。それがきっかけで連絡を取り合うようになった。それから自宅に近い回転寿司店で会う機会があった。そして、その出会いがまた次の出会いを呼んだ。

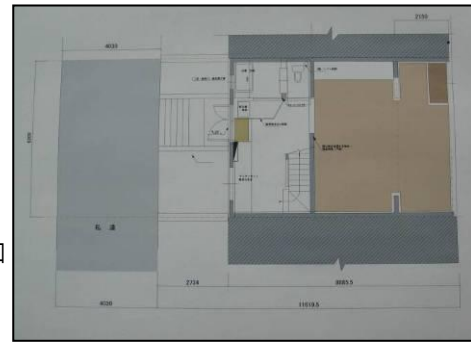
かまくら認知症ネットワークでは認知症の支援を市民に広げるために『認知症の啓発資料等の検討会』という、ちょっと硬い名前の会合を行っている。その第1回目に、先ほどの若年性認知症のご本人と家族が同席してくれることとなり、当事者の立場から困っていることなどをお聞きすることができた。それが縁となって参加していた委員が取り組んでいる里山を守る活動「山崎・谷戸の会」の行事へも参加されるようになった。いまでは検討会の委員を務めていた医師が主治医となり、病気や生活に関する助言も受けているとのことである。

最近かまくら散歩の企画を担当しているスタッフからうれしい一報が届いた。鎌倉中央公園でかまくら散歩と同日開催する認知症サポーター養成講座に、公園を管理する団体へ向けて1~2名程度の参加を呼び掛けたところ、「大変い意義のあることなので職員研修として日程を調整したうえで全職員に受講させたい」という申し出があった。公園協会の事務所がある鎌倉中央公園はさきほどの「山崎・谷戸の会」の活動拠点でもある。

人と人が立場を超えて集うことで新しいつながりが生まれる。認知症地域支援フォーラムでアルツハイマー型認知症の当事者としてパネラーを務めた秋本さんと出会ったのが1年前、私が鎌倉市今泉台に開設を計画していた認知症の人のためのデイサービス『ケアサロンさくら』の開設準備会合の席だった。その後建築設計の仕事をしていた今泉台在住の秋本さんには改修工事の原案となる図面作成をお願いすることになる。秋本さんを紹介してくれたのは今泉台すけっと会（助け合いの会）の伊藤代表だ。

人とのつながりはまだまだあるがここでは到底書ききれない。ただ言えることは、認知症ケアでは「つながる」が大切なキーワードになる。なぜなら支援困難な認知症の人や家族ほど、人とつながることをあきらめて孤立していくからだ。だから、支援者にはつながることへの執拗なまでの『意思』が必要なのだと思う。認知症の当事者の秋本さんが描いたプランは、今では認知症デイサービスの事業所となって支援困難な認知症の人と家族を支える役目を果たしはじめている。

この町のいろいろなところで、人々が立場を超えてつながることで、この町に新しい可能性を感じる空気が作られることを願っている。



秋本さん作成「ケアサロンさくら」改修プラン

★運営スタッフ募集★ 一般社団法人かまくら認知症ネットワークでは会の活動に協力して頂ける方を募集しています。お気持ちのある方は是非、電話 0467-47-6685（事務局）までご連絡を！

～次号予告～

- ☆かまくら散歩～谷戸の春を歩こう～
認知症の人とサポーター、市民、専門職の楽しい交流をレポートします！
- ☆センター方式入門講座レポート
認知症の人のケアマネジメントツール「センター方式」を使ってみよう！
- ☆地域の動き、24年度事業計画、他

| 3月・4月の予定 | | |
|----------|--------------|-----------|
| 3月10日(土) | 認知症相談 | 玉縄学習センター |
| 3月13日(火) | 認知症啓発資料等の検討会 | NPOセンター鎌倉 |
| 3月22日(木) | 運営会議 | NPOセンター鎌倉 |
| 3月25日(日) | かまくら散歩 | 鎌倉中央公園 |
| 4月18日(水) | 運営会議(予定) | NPOセンター鎌倉 |
| 4月20日(金) | 理事会 | NPOセンター鎌倉 |
| 4月28日(土) | 認知症相談(予定) | 鎌倉市役所 |

★題字について 会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご息(知的障害のある茂明君)にお願いしました。お陰様で力強く明るい紙面ができました。(稲田)

鎌倉市との協働事業

認知症相談事業(予約制)

症状の背景や介護の仕方について解かりやすく説明します。(社)かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています

| | |
|---|---|
| 3月10日(土) 玉縄学習センター 13:30~16:30 (2月15日~予約受付) | 4月28日(土)予定 鎌倉市役所 13:30~16:30 (4月1日~予約受付) |
|---|---|

申し込み先:鎌倉市役所 市民健康課
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付 8:30~17:15)

入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい
資料をお送りいたします。

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局
[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)

※申込書送付後、年会費をお振り込みください。
郵便振込口座 00240-8-140587
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク

立場を超えて認知症地域支援にむけてできることを熱く語らう場に！



厳寒の1月28日(土) 鎌倉市福祉センターで「鎌倉市認知症地域支援フォーラム」が行われ、関係者を含め166名の参加がありました。フォーラムは午前の部と午後の部に分けて行われ、午前の部では地域でサロン活動などを行っている市民6名による発表が、午後の部ではパネルディスカッションの後にグループワークが行われ、参加者とりレー発表者、パネラーが膝を交えて、自分たちができることについて熱心に意見を交換していました。

午前の第1部では松尾崇市長の挨拶に続き、『小さな一歩から始めています』というテーマに沿って、高齢者を支える市民6人による地域活動のリレー発表が行われました。

発表では第3地区社協(鎌倉地域)、元気まんぷく会(腰越地域)、やよいの会(深沢地域)、小袋谷いきいきサロン(大船地域)、青空サロン(玉縄地域)、みとみ青果店(今泉台地区)の6つの報告がありました。取り組みの内容は、自治町内会や民生委員、地域住民が主体となり、行政、介護事業者の協力を得て、健康体操や体力測定、昼食やお茶を飲みながらの世間話、口腔ケア講習や認知症講習、防犯講習、歌や手芸、気候が良い時の散歩の取組みを行っているなどなど、様々な報告がありました。

また今泉台の商店街に店を構える三富博子さんから、商品配達時に玄関先で立ち話をする合間に

ちょっとした相談に応じる等、自然発生的に生まれた支え合いの様子が語られました。いずれも地域でその人らしく暮らすための工夫やアイデア満載の温かく力強い発表でした。



熱心に耳を傾ける参加者たち

コーディネーターの永田久美子氏(認知症介護研究・研修東京センター 研究部副部長)は活動への助言として、「認知症の人を地域で支える目的は、馴染みの人達との関わりが重要」「小さくても張りあいや楽しみ、希望を創っていくことが大切」とのお話がありました。地域の理解と支援、つながりが真に大切であると実感しました。(KT)

※一般社団法人かまくら認知症ネットワークは「鎌倉市認知症地域支援フォーラム」に共催し開催に協力してまいりました。

認知症地域支援フォーラムに参加して♪ ~小袋谷いきいきサロン 大島三枝子~

認知症のご家族を介護するパネラー澁谷郷子さんの「認知症は親が子にする最後の教育」が頭の中で響いている。葛藤の末、それでも親を親として人を人として敬う想いが伝わり胸が痛い。今や身近な問題となっているのに、案外実態を知らない。地域は認知症をどう受け入れるんだろう。方法はいろいろあるかも知れない。でも認知症とのお付き合いって、受容・共感・理解の階段を知識と情報を杖に登っているようなものと思う。だから基本的な知識、情報は不可欠、それから核になれる人。けれどもなによりも認知症の人が安心して暮らせる地域の基本は、他者を尊ぶ心が原動力ではないだろうか。そこからの行為の積み重ねが本当の意味での土台なんだろうと思う。いろいろ考えさせられたフォーラムでした。



『私たちにできることを考えてみよう』 認知症地域支援フォーラム 第2部

昼食休憩をはさんだ午後の第2部では、「私たちにできることを考えてみよう」というテーマで医師、介護事業者、金融機関、介護家族、認知症当事者によるパネルディスカッションが行われました。

最初に、医師で鎌倉市医師会副会長の井口和幸氏が「認知症かかりつけ医マップ」を配布し、認知症について専門的な研修をけている鎌倉市内の医療機関を地図上に示したうえで、医療機関のネットワークの仕組みについて説明してくれました。



認知症かかりつけ医マップの説明をする井口先生

“認知症の家族を診てくれる医療機関がわからない”という市民の声に応えるかたちになった今回の報告に永田久美子氏からも、「リストをマップにして配布しているのは先駆的で素晴らしい」とコメントがありました。

次に金融機関の取り組みとして湘南信用金庫では「やさしい思いやりのある窓口」を目指し、800名の行員が「認知症サポーター養成講座」を受講しています。全店舗に認知症サポーターを配置して、サポーターの証である「ロバのピンバッジ」を着用しているそうです。

介護事業者の稲田秀樹氏からは「ケアサロンさくら」での「ひらかれたデイサービスのこころみ」として、独居高齢者の見守りを兼ねて空きガレージを借り

る試みや、デイサービスのある商店街の人たちに認知症サポーター養成講座を受講してらった話を伺いました。今では八百屋さんや魚屋さんの紹介で相談に来る人もいるそうです。

介護家族の澁谷郷子氏から、介護者としての自分と母親としての自分との葛藤や、どこに相談に言っているのか分らなかった時の悲しい気持ちなど、切実な介護の体験を話されました。最後にアルツハイマー型認知症の当事者である秋本宏氏から、診断されるまでの経緯や「ケアサロンさくら」とのかかわり、診断されてからの心情、新薬の治験を受けていることなど、コーラスグループに入って発表会で歌った体験について話していただきました。

各発表のあと永田久美子氏より「様々な立場の人たちが互いにつながりあっていることが大切」と話があり、その後、参加者全員で「私達にできること」についてグループディスカッションを行いました。

午前10時から午後3時半まで、あっという間に時間が過ぎ中身の濃い1日となりました。参加者アンケートの中にも「身近なことから始めたい」「自然な声掛けをしてみます」などの前向きな意見が多数あり、最後に永田氏からも「つながりを広げて！」とメッセージを頂き閉幕となりました。(OA)



自分にできることを考えるグループワーク

『認知症啓発資料等の検討会』について

「認知症啓発資料等検討会」では、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすために必要な市民への情報提供のあり方や、情報共有のあり方について検討しています。

認知症の問題は、決して他人事ではありません。突然自分自身が認知症の当事者になる事や家族に認知症が発症する事は誰にでも起こりうる可能性があります。最近では認知症についての情報が発信される機会が少しずつ増えてきました。ただその中で、認知症の物忘れや徘徊等の症状についての情報が特に印象として残り「認知症は怖い」「認知症の介護は大変」等の不安や恐怖のイメージをもたれることもあるようです。しかし、実際には認知症になっても正しい理解と適切な関わり方や周囲の対応によって、発症後も住み慣れた地域の中で穏やかに暮らし続けている方もいらっしゃいます。

現在、検討会では、認知症啓発の取り組みとして、様々な提案の中から、我々かまくら認知症ネットワークが主催し、少人数に対して行う地域密着型の認知症サポーター養成講座の開催に向けて具体的な話し合いを重ねています。認知症の本人・家族に対しての応援者として、特別なことをする人ではなく、病気について正しく理解し、認知症の本人や家族を温かい目で見守るサポーターの輪が講座を通じて地域に根付き広がっていくことを目指し今後活動を行っていきます。(KA)

※認知症啓発資料等の検討会は全5回の予定で開催され、市民、医師、介護従事者委員による話し合いが行われています。



地域の動き 『市内コンビニで初の認知症サポーター養成講座』 セブンイレブン深沢店 鎌倉市

2月6日(月)、湘南モノレール深沢駅前のセブンイレブン深沢店で、従業員研修として認知症サポーター養成講座が開かれ、6名の方が受講しました。講師を務めたのは鎌倉市市民健康課の職員の方です。

講座は、認知症の基礎知識から始まり、ビデオを見ながら認知症の方への接客法が話し合われました。ビデオで、つっけんどんな言葉かけをしたり、乱暴な対応をする店員が紹介されたところ、従業員からは「お

認知症の本人もパネラーとして参加 : することは考えられま

せん」と前置きがあり、やさしい言葉かけをしたり、移動を促す場合にも丁寧な対応をしているといった話が出て、認知症の方の場合でも、それが有効であるこ

とを確かめ合いました。また、お金が不足して買い物に来る方など、日ごろから高齢者の方に適切な対応がされていることも確認できました。

講座終了後には、参加者には認知症サポーターの証であるオレンジリングと、「認知症の人にやさしいお店です」と書かれた店舗用オリジナルステッカーが配られました。店長の高田さんは「深沢地区は、市内でも高齢化率の高い地域が多く、有料老人ホームも近くにあり、受講の必要性を感じていました。とてもいい勉強になりました」と話されていました。(NS)



地域の動き 『認知症市民公開講座』 日本医科大学、川崎市、老人病研究会 川崎市

2月11日に川崎市総合福祉センターにて認知症市民講座が開催されました。参加者は高齢者の方が大半を占めていて認知症に対しての関心の深さも感じました。前半は、川崎市で行われている文部科学省社会連携研究推進事業の紹介でした。これは川崎市中原区に「認知症街ぐるみ支援ネットワーク」を設置し、そこを拠点として、認知症に関する相談窓口である「街ぐるみ認知症相談センター」を設けたものです。センターでは、相談に来られた方にタッチパネルによる物忘れテストを行い、その後臨床心理士による面談を行った後、かかりつけ医につなぐ取り組みをしています。また川崎市では、川崎市認知症ネットワークによる

認知症電話相談「サポートほっと」を実施しています。また、川崎市認知症ネットワークでは、認知症になってもなじみの地域で住み続けられる町づくりを目指して、犬の散歩時に見守り活動をする「わんわんパトロール」、認知症サポーター養成講座修了者が登録する見守り隊の活動を行っています。平成21年版の高齢社会白書によれば、神奈川県は65歳以上の人口の増加率(2005年~2035年)は全国で最も高くなるとのことで、今後それぞれの地域が独自性を持ちながら、良い所はどんどん取り入れる必要があると思われました。(SD)



地域の動き 『認知症の診断・治療の受け入れ状況、及び連携に関する医療機関調査』 認知症の人と家族の会 神奈川県支部

「認知症の人と家族の会」神奈川県支部では、神奈川県及び横浜市から委託を受けて、認知症の電話相談を行っています。これまで1138件の相談を受けた中で、「認知症の診断をしてほしい」「精神症状が強くなって困っている」「在宅で介護を続けているが往診してくれる医師がいない」などの医療機関に関する相談が多く寄せられているため、神奈川県支部のコールセンター電話相談員が医療機関を訪問して調査を実施しています。

神奈川県支部世話人の田村さんによると、調査の対象は、「鑑別診断の受け入れ病院」「周辺症状の激しい時期の受け入れをしている精神病院及び精神科のある

病院」「在宅介護をする家庭を訪問診療するサポート医」で、今年度は30施設について実際に見学し説明を受ける方法で実施しているそうです。

調査内容は「初診の受診方法」「予約から初診までの待ち時間」「入院の必要な場合の受入可否」「費用の概算」「訪問診療の有無」などです。調査でわかったことは今後の電話相談に活かしていくそうです。認知症の症状などでお悩みの方は、かながわ認知症コールセンター☎044-543-6078まで。時間月曜水曜10時~20時/土曜10時~16時。※この記事は「家族の会」神奈川県支部への電話取材と会報を参考に作成しました。(IN)

